

2026年1月17日(土)に三軒茶屋・若林地域防災セミナーを開催いたしました。講師の浅野先生は2020年にお招きしたのに引き続き、2度目の講演でした。

「在宅避難の質向上を考える」

～自助に加えて地域からの在宅避難支援環境の充実をめざして～

講師： 減災と男女共同参画研修推進センター共同代表 浅野幸子氏

《講演の要点》

事前の防災対策

- 住民の1人1人が日頃から在宅避難の備えの質の向上を十分に行うこと。そして、避難所との関係を保ちながら支援を受けられるようにすることが避難の質の向上につながり、全住民が地域全体で災害を乗り越えていける力になっていきます。
- 火災、避難障害、ケガの「3つの危険」への対策
家庭にも消火器を備えること、感震ブレーカー取り付け
家電・家具類の転倒落下防止器具の取り付けを徹底
することが大切です。
- 食料・水・携帯トイレなどの在宅備蓄
備蓄は多めに2週間が目安。地域の多くの住民が備蓄
品と数量を見直し実行している所は地域全体が守られ
救われます。備蓄人口を増やす啓発を進めましょう。



避難選択の課題

- 避難所にいないと食料・生活物資の支給が得られないのではないか、避難所に行っても支給を断られるのではないか、情報が手にはいらないのではないか等の不安を解消していくことが求められます。
- 発災直後の避難選択

指定避難所

(小・中学校など)

在宅避難

(自宅、親族、知人宅)

車中泊・他

(車、ガレージ、テントなど)

- 避難所は在宅避難、車中泊・他の支援拠点

能登の事例にもあったように、在宅避難者への支援物資の配布の体制にも力を入れること、また、在宅避難者が物資を受け取りに来た時には在宅避難者の名簿を作成し、その後の追加支援継続にも生かしていきたいものです。

○災害関連死の防止

2024年1月1日に発生した能登半島地震では直接死は228名、関連死は456名と直接死の2倍以上となりました。関連死の多くは避難所などの劣悪な環境が起因するといわれております。関連死を出さないということが大きな課題です。そのためにも、地域の方々の協力を得ながら避難所運営に携わる人を増すこと、女性の参画を強く進めること、役割と分担を明確にすること、健康と衛生面の生活の質の低下を防ぐこと、質の向上対策をはかっていくことが肝心です。

○結びとして

指定避難所を地域全体の支援拠点としつつ、地域全体で連携・協力し合える運営体制が求められています。
復興へのエネルギーを蓄えながら避難生活ができるような戦略を地域で検討し具体的に1つ1つ打ち出し、被災者にやさしい支援をしていくことが大切です。



参加者の感想の一部をご紹介します。

- 在宅避難の質向上のため、何をすれば良いかのイメージが持てた。(40代男性)
- 在宅避難と避難所運営は別の考え方ではなく、一体的に考える必要性を痛感。被災地の具体例を多く示していただき、理解しやすかった。(70代男性)
- エコノミークラス症候群の予防として運動、水分摂取の大切さを学びました。簡易トイレの備蓄を見落とししていたのですぐ用意します。(50代女性)
- まずは火災を起こさないことを肝に銘じます。簡易トイレの備蓄が全然足りないと実感しました。(70代女性)

若林・三軒茶屋地域からのメッセージ

- 世田谷区は住民の皆様在宅避難を推奨しております。
- 若林地域の指定避難所は、若林小学校、総合教育センター、一部の地域は三軒茶屋小学校、太子堂小学校です。
三軒茶屋地域の指定避難所は三軒茶屋小学校、中里小学校です。
- 指定避難所は在宅避難者への物資・情報支援の拠点でもあります。
- 支援物資配布などの情報は区の掲示板、公園の災害掲示板、町会の掲示板、ホームページ、SNSなどを活用し、情報発信してまいります。

若林地区身近なまちづくり推進協議会は若林まちづくりセンター管内の住民委員で構成された協議会です。安全安心部会は主に防災・防犯・交通安全など地域の安全安心まちづくりを推進しています。この通信は三軒茶屋・若林地域に掲示・回覧・配布しています。世田谷区のホームページからも見る事ができます。

メンバー 小泉一哉 鈴木久 高木史雄 津上仁志 月村雅一 廣瀬稔教 堀江義之 (アイウエオ順)